注意報

茨城県病害虫防除所　　令和２年５月29日

病害虫発生予察注意報 第１号

ナシ黒星病の発生が多くなっています

発病した果実および葉の除去を徹底し，二次伝染を防ぎましょう

［発表の内容］

作物名　：ナシ

病害虫名：黒星病

発生量　：多い

発生地域：県下全域

［発表の根拠］

① ５月下旬現在，発病葉率(本年値 1.26%，平年値 0.14%)，発生地点率(本年値 45%，平年値 17%)ともに平年より高い(表 1)。

② ５月下旬現在，発病果率は平年より高く(本年値 1.54%，平年値 0.30%)(図 1)，発生地点率は平年並(本年値 35%，平年値 30%)である。

表１　５月下旬におけるナシ黒星病の発病葉率および発生地点率

地域(地点数)	発病葉率(%)			発生地点率(%)		
	R2年	平年[1)]	順位[2)]	R2年	平年	順位
全県(20)	1.26	0.14	1位	45	17	1位
県北(2)	0.99	0.27	2位	100	25	1-2位
県央(2)	0	0.03	2-11位	0	5	2-11位
県南(6)	1.60	0.26	1位	33	25	3-5位
県西(10)	1.36	0.08	1位	50	14	1位

1)平成 22 年～令和元年までの 10 年間の平均値を示す。
2)本年を含む過去 11 年間における本年値の順位を示す。

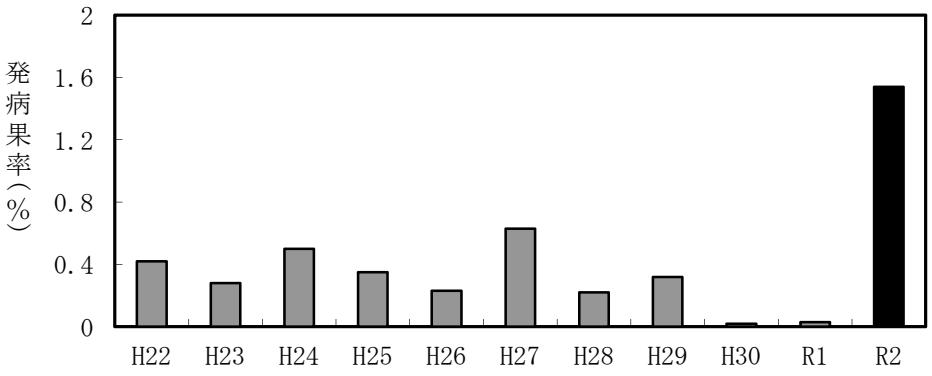

図１　５月下旬におけるナシ黒星病の発病果率の年次変動

［防除対策］

① 発病した果実(図 2)，葉(図 3)および果そう基部等は二次伝染源となるため，見つけ次第除去して土中深く埋める等適切に処分する。

② 薬剤散布は，発病部位を除去した後に行うと効果的である。

③ 本病は曇雨天が続くとまん延するため，令和 2 年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に，散布間隔が 10 日以上空かないように防除を実施する(表 2)。発生の多い圃場では追加防除を検討する。

④ 薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に行う。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

表2 令和2年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例の一部抜粋
（6月上旬～7月中旬の殺菌剤，茨城県版）

時期	薬剤名	希釈倍数	成分名	FRACコード
6月上旬	オキシラン水和剤	600倍	ｷｬﾌﾟﾀﾝ 有機銅	M04 M01
6月中旬	フルーツセイバー	1,500倍	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ	7
6月下旬	ベルクートフロアブル	1,500倍	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07
新梢発育停止期 (7月上旬)	ストロビードライフロアブル	3,000倍	ｸﾚｿｷｼﾑﾒﾁﾙ	11
7月中旬	アンビルフロアブル	1,000倍	ﾍｷｻｺﾅｿﾞｰﾙ	3
	ベルクートフロアブル	1,500倍	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07

図 2　幼果の病斑(初期)

図 3　葉(葉柄)の病斑